

閉鎖性湾域における外的環境変動が内湾環境に及ぼす影響と 応答機構の解明に関する研究

(研究期間：平成 1 1 年～ 1 3 年)

任期付研究員：野村 宗弘 (独立行政法人港湾空港技術研究所)

総 評 (一定の成果が得られた研究である)

本研究は、我が国の沿岸域における内湾環境管理に対する社会的要請を踏まえ、内湾の継続的利用を図りつつ、健全な内湾環境維持に向けての方向性を探り、湾内の水質改善に寄与できる造成干潟等の配置に関する評価を目指すものである。

本研究においては、東京湾を対象に短波レーダーを用いた湾内流動の観測と干潟浅海域の水質変動観測が行われ、環境変動が水質に及ぼす影響が解析されており、任期付研究員は、東京湾盤州干潟における潮汐に伴う直上水の水質変動に関する調査を行い、干潟の日周期の物質循環機能を明らかにするなど、一定の研究成果が得られるとともに、ほぼ順調に研究が進められたものと考えられる。

なお、個々の研究テーマに関する成果は得られているが、テーマ間の連携が希薄であり、また、任期付研究員は日々観測に追われた結果、研究発表の機会が十分に確保できていないという面も見受けられる。

他方、任期付研究員の活用効果については、短期間で研究成果を求められる使命感が周囲の研究者に波及して競争意識が喚起され、研究所における研究活動の活性化に寄与するなどの効果があったものと考えられる。また、任期付研究員が研究に専念できるよう十分な研究スペースや時間の確保、迅速・適切な事務処理を行うなど、研究所の任期付研究員に対する支援も行われている。

以上により、本研究は、総合的に一定の成果が得られた研究であったと評価できる。

< 総合評価：b >

評価結果

総合	1.目標達成度	2.目標設定	3.研究成果			4.任期制	
			1.科学価値	2.科学的波及効果	3.情報発信	1.活用効果	2.機関支援
b	b	b	b	b	b	b	b